

感想文…第1820回十二支会特別例会協賛

ツアーに参加して

◇実施日 平成27年6月26日～6月30日

◇参加者 新宮山彦ぐるーぶ第1820回1&2に同じ

今年1月11日の十二支会例会以来、山に関して2つの目標を決めていた。一つは南奥駆道を今年と来年に分けて奥駆行すること、二つは羊蹄山に登ること。山の知識・経験の無い私が、遠く北海道の名山・高山(ニセコアンヌプリ・羊蹄山・旭岳)に登ることができ、感想を一言で表わすと、「充実」「感激」そして「少しの自信」である。

今回の山行の私なりの目的は、山登りに加え、北海道の自然景観をじっくり見て知ることであった。

6月26日 千歳空港～洞爺湖温泉

千歳空港から洞爺湖へのレンタカーの車中、市街地でない北海道の大地の景色を熱心に見た。約2時間でホテルから1～2Km地点に到達、ここには有珠山とその麓に昭和新山があり、昭和新山が近くに見えてきた。

昭和新山は、72年前(S19年)にいきなり畑が盛り上がり始めた。粘り気の強い溶岩は、火口から流れ出るのでなくチューブから搾り出すように、畑をムクムクと押し上げ、2年間かかりで現在の鐘型の山体ができた。その間の様子を地元の郵便局員さんが克明に記録に残し、世界的に有名になったそうである。

ホテルの前には洞爺湖の湖面が悠々と広がっている。直径が12kmもあり、この大きさを例えれば、新宮駅から那智勝浦駅を直径とする円の広さだ。湖面の上にあった山が溶岩の噴出で無くなり遂に陥没し水が貯まる。再び噴火が起こり、湖の中心に山ができたそうだ。何と想像を絶する自然の力であろうか。

6月27日 洞爺湖～ニセコアンヌプリ～十二支会前夜祭

北海道の夜明けは早い。3時半ごろから明るくなるようだ。ホテル洞爺湖万世閣を出発、北海道らしい景色の中を1時間半ほど走り、ニセコアンヌプリ登山口に到着。車道の左右には延々とフキが生えている。このフキは紀伊半島のものよりも葉が大きく背も高い。寒い処では小さいはずなのに逆に思える。

後日訪れた北大植物園に、大昔からアイヌの人たちが食用・薬用にした植物が何十種も栽培されていて、そこにフキもあった。フキの利用法はこうである。春先に茎の根元から切り取る↓茹でて皮をむく↓10本ほどを縄で縛りしっかり乾燥させる↓保存食用に貯蔵する↓食べる時再び茹でて、ニンソウと共に汁物に入れて食べる。またフキの根を煎じて飲むと、「はしか」「熱さまし」に薬効ありと。

登山口を出発して暫らくのところ、地元のおばちゃんがりユックに一杯詰めたものを背負って来る。何かと聴くと、ネマガリダケ(根が曲がった竹)の筍で、食用に取って来た。足元にネマガリダケが一杯生えていた。アイヌの人達も今の人達も食べていたのだ。

ニセコアンヌプリの「ヌプリ」はアイヌ語の「山」だそうだ。「カムイヌプリ(神の山)」と呼ばれる名の山もあるそうだ。登り下り共にガスがかかり小雨も一時あったが、標高差558m(750m〜1308m)を往復し終盤戦には一瞬晴れ間が出て日本海を見ることができた。下山後一路、ホテルニセコアルペンへ向い、九州・岐阜の皆さんに合流、十二支会特別例会前夜祭で再会に乾杯！

6月28日 比羅夫登山口〜羊蹄山〜定山溪温泉

登山口を歩き始めたら大変緩やかな登山道で、蝦夷富士の裾野を歩いていることがよく分かる。この日もまた大いに感動するのだが、1合目、2合目辺りの左右に広がる森は、言葉にならない美しさである。樹種は知らないが、背の高い樹とその樹下は十分に明るい。紀伊半島周辺の人工林の山とは全く違う。景観が違うどころか、漂う空気まで全く違う感じを受ける。

1日中ここに居ても良いと思う。この景観が北海道本来の始原の森の姿だろうか。この辺りは、明治時代に開拓された所ではないから、間違いなく始原の森なのだろう。今回の旅の目的の一つが叶えられた思いになった。

高度が上がるほどに植生は変化してゆく。何人かの人に木や花の名前を教えてもらいながら、その美しさに見とれて登った。



新しく知った木の一つが、ダケカンバ。あるところに大木があった。

この木の仲間間で平地にあるのが白樺だそう。同じ仲間なのにこの木は余程雪に痛めつけられてか、相当にひねくれた枝振りをしてい。人間も逆境に立ち過ぎると、ひねくれた根性になる。

始めて見た花の一つが、ツガザクラ。梅の樹に桜の花のよう。これも何と美しいことか。



羊蹄山は、過去何百万年もの間に何回も噴火を繰り返し、その度に溶岩が積み重なって今の姿になっている。

ここの溶岩はサラサラしているので流れ易く、広い裾野を作り出さず。溶岩流と火山灰が相互に積み

重なり層をなしているので成層火山というそうだが。我々が歩いているその下に、もう一つの羊蹄山が眠っているのだ。

足場はガレ場ばかりだけれど、山の生立ちなどを想像している内に頂上に到着。標高差1548m(350m)〜1898m)

を登りきる。やがて天候は悪化し、急に霧が出て雨も降り出した。体が冷えて寒くなる。手先が冷たく痛い。指先が効かず雨ガツパのホックを留めるのに一苦労、計画を一部変更し全員が登った道を下山。

下山の道は大いにぬかるんで靴は泥だらけ、登山口の水道で靴を洗ってレンタカーに乗り込む。

この日も、大自然に圧倒され感動し、名山に登ることが出来た。

6月29日 定山溪温泉〜旭岳〜東神楽温泉

朝目覚めた時から「今日は標高2290mの高山に登らななきゃならない」との意識の下、若干の緊張感があった。

と言うのも、去る4月11日〜12日に持経宿↓太古ノ辻↓3前鬼を巡視した時に、梶野さんに鍛錬のポイントについて分かりやすく説明してもらって鍛錬に勤しんできたが、少々頑張り過ぎて腰の左右に筋肉離れ痛が続いていた。頂上まで行けるか引き返すか、様子次第だと考えた。

ロープウェイ姿見駅(標高1600m)から歩き始めると、残雪を踏みしめて歩くことになる。雪解け水が流れる登山道を歩き、高度が上るにつれ目に入る木や高山植物の種類が入れ替る。8合目、9合目を超えやがて頂上へ。これまでは雲の中にいたが、頂上に到着する頃急に晴れて、足元には見事な雲海が広がる。北東の方向の向うに黒岳が見える。黒岳の手前には、山頂が吹き飛んで鍋の形をした山が近くに見える。周囲の山々も見える。素晴らしい!!!

昼食を確保できなかった人が何人かいたので、皆で分かち合
いながら昼食を取る。今日もまた児嶋さんがホットコーヒーを
作って下さる。2杯貰ってしまった。

しかし、懸念していた腰痛も全く大丈夫で、北海道一の高山
に登ることができた。感謝！ 充実感！

6月30日 東神楽温泉く中富良野くサッポロビール園く

千歳空港

この日は一日中、10人乗りのレンタカーの運転手になっ
た。この4日間窓外の景色を思い存分楽しんだので、この日
は運転に専念。トヨタの同じ車種を毎月運転しているので、
戸惑いはなかった。

東神楽温泉出発後4時間、正午過ぎにサッポロビール園に
到着。既に焼肉のテーブルがセットされており、早速に昼食
が始まる。大変美味しかった。

初日からずっと運転してくれた大江徳子さん、休まる暇の
無かった沖崎さんにゆっくりビールを飲んでもらえて良かつ
た。

山で皆と一緒にする時は労働が中心になりがちだが、今回は
夜な夜な話もでき、今更ながら交流が深まる思いであった。

素晴らしい企画をして頂いた川島さん、時間に追われなが
ら勘定奉行をして頂いた沖崎さん、頼もしい引率者であった
大江徳子さんに、深くお礼申しあげます。

(追伸) 調子に乗って、8月盆明けに富士山に登ることに

しました。

(記 田中)